

＜ もくじ ＞	
1. 第7回 研究会合同イベント「人生の第三期に広がる世界～新しいキャリアへの挑戦～」のお知らせ（再掲）	1
2. 学会活動評価委員会の設置について	2
3. 研究会からのお知らせ	2
4. 研究会からの概要報告	3
5. 事務局からのお願い	5

## 1. 第7回 研究会合同イベント「人生の第三期に広がる世界～新しいキャリアへの挑戦～」のお知らせ（再掲）

「人間五十年」とか「人生七十年」といわれたのは昔のこと。今や「人生100年」も稀ではなくなりました。かつて定年後は余生とよばれたものですが、今日では教育期や就業期の後の人生がしだいに長くなってきています。「余りの生」というには長すぎる人生の第三期には、これまでの生き方にとらわれることなく、新しい道に進むことができます。学ぶ、働く、社会への貢献など、あなたも新しい可能性に挑戦してみませんか。

- (1) 日 時：2023年3月25日（土） 14：00～16：00
- (2) 開催方法：登壇者は会場で講演・討論、一般参加者はZoomによるオンライン開催
- (3) 参加費：1,000円（Peatix または銀行・郵便局からの振り込み：詳細はチラシ参照）
- (4) 申込方法：Peatix、またはメールで申し込み（3月22日までにお願いします）
- (5) 内容

### ■ 基調講演

タイトル：自律する個人が生き活かし合う社会を創る ～ソーシャルビジネスの現場から～  
 ・ 治田友香（関内イノベーションイニシアティブ 株式会社 社長）

### ■ パネルディスカッション

司会／モデレーター

・ 袖井孝子（シニア社会学会会長）

パネリスト

- ・ 池口武志（一般社団法人 定年後研究所 理事・所長）
- ・ 小野晶子（独立行政法人 労働政策研究・研修機構 主任研究員）
- ・ 本田恭助（一般社団法人 シニア社会学会 運営委員）
- ・ 治田友香（関内イノベーションイニシアティブ 株式会社 社長）

※ 研究会合同イベントは、多くの研究会の交流を図るために各年度の3月に研究会の1つが持ち回りで主催主体となり毎年開催してきました。現在、2023年度に新研究会の立ち上げを準備しているグループ（代表：本田恭助）が、時代の変化に応じた当学会の新しい方向性を模索するために企画するものです。多くの方のご参加をお待ちしております。内容の詳細と申し込み方法については添付のチラシをご覧ください。

## 2. 学会活動評価委員会の設置について

当学会創立 20 周年を機に設置された 2021 年の「長期計画検討委員会」での検討を経て、昨年度の 2022 年度には、当学会の目指すべき基本方針の再確認と時代の変化に応じた具体的活動方針についてのアイディアに基づいて、その第 1 歩を踏み出すことになりました。そして 1 年ごとに活動内容や職務内容についての評価を行うことが決められました。当学会のような組織において、活動評価を行う経験は初めての試みですが、アカデミックな分野ばかりでなく企業在籍者や出身者を含む会員から成る当学会の一つの特色として重要な意味を持つものと期待されます。

### (1) 評価委員

富田光則、柴本淑子、本田恭助、森嶋由紀子の 4 会員に依頼し了承をえています。委員長は富田光則さん。3 月 9 日の運営委員会で基準設定と評価方法の提案をしていただきました。4 月 16 日(日)の新年度上期理事会で承認を得て、正式にスタートします。

### (2) 評価の基準と方法

評価は、① ②の 2 本立てで進める。①各活動の担当者に、目標に対してのアクション、行動の達成度に対する評価(自己評価)をしてもらい、評価委員会でそれを取りまとめて学会全体として達成度を数値化した評価につなげる。②1 年の活動を経て、学会のイメージがどう変化したか、以前長期検討委員会でとったアンケート項目を基に、会員に再度評価してもらい比較検討する。

①については、A 事務局運営の改善チーム、B 既存活動の継続と活性化チーム、C 対外アピール・発信・交流チーム、D デジタル化推進チーム、という 4 つのプロジェクト・チームを編成。各チームで年間の目標とした活動細目を設定し、それぞれの細目については各チームの担当者に、チーム全体については各チームのリーダーに、主観的に評価を 10 点満点の数字で記入してもらい集計する方法です。これらの点数の比較をしつつ、当学会の基本目標を再確認した上で時代の変化に合わせた活動方針をより絞っていくとともに、当学会全体の活動の現状についての評価を行い、次年度の活動に向けての改善点を明らかにし、具体的に反映させることを考えています。

## 3. 研究会からのお知らせ

### (1) 第 149 回 「社会保障」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2023 年 3 月 22 日(水) 18:00~20:00

2) 報告者：井上治代(東洋大学現代社会総合研究所 客員研究員)

3) テーマ：単身/無縁社会における「死後福祉」「葬送の社会化」～認定 NPO 法人エンディングセンターの試みを事例として～

4) zoom でいたしますので、参加を希望される方は、阿部と小島にご連絡ください。

阿部富士子 [fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp](mailto:fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp) 小島みさお [kojima.misao01@gmail.com](mailto:kojima.misao01@gmail.com)

※ ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで 090-4436-6853

### (2) 第 85 回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ(再)

1) 日 時：2023 年 3 月 23 日(木) 15:00~18:00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場 4 階第 7 共同研究室

3) テーマ：意見交換<その 2> — 『シニア社会の課題とシニアからの提言』について、深掘り討議する～時代の変化を踏まえて～

4) 参加費：300 円

※ お問い合わせは、島村(ken-sima1941@jcom.home.ne.jp)までお願い致します。

### (3) 第 31 回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

1) 日 時：2023 年 3 月 25 日(土) 18:30~20:30

2) 場 所：品川区東大井 5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室

3) 発表者：鈴木 眞澄及びその他 YNS やまぶき任意後見サポート会

4) テーマ：認知症とともに生きる

ひょうざ

劇団 「B笑座」第17回。

「認知症とともに生きる」です。

認知症らしさを体験することで新たな発見が生まれます。

劇団員募集しています。Zoomの参加もできます。

※ お問い合わせは、鈴木 眞澄 (mme\_masumi@yahoo.co.jp) 迄お願い致します。

#### (4) 第42回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

4月の開催日程について、今回は、学会ホームページの「ライフプロデュース」研究会のブログにて決まり次第、お知らせいたします。[ライフプロデュース研究会 \(sblo.jp\)](http://sblo.jp)

※ ご連絡ご質問は、中村昌子 (nakamurayoshiko6@gmail.com) までお願いします。

## 4. 研究会からの概要報告

### (1) 第39回「社会情報」研究会の報告

1) 日 時：2023年2月15日(木) 15:00~17:00

2) 場 所：Zoom 開催

3) テーマ：俱進会調査研究 報告書とりまとめに向けて

#### ① 報告書に向けて

報告書まとめの経過を八巻さんから報告

#### ② インタビューデータの整理・分析のレビュー

1) 3-3 スマートフォンで利用している機能 (担当 齋田)

・「I. 全機能項目×全対象者」が大事な部分

・報告書に入れる箇所として適当なのは

I-2. 対象者ごとの利用機能とその分布状況

I-3. Online 取引はアクティブユーザでも受容度は半分程度

II-1. あざみ野と市川の対象者たちのスマホへの利用観

III-1. 主要機能の利用状況一覧

III-2 機能評価の結果

であろう。

2) 「デジタル社会への適応に対し高齢者が持つ課題を抽出し、課題解決のための支援策」について検討

・PC から始めた人と、そうではない人で差が出ている。使ってみたら良さがどんどんわかり、もっと使ってみようとなる。スマホを上手に使いだした。PCよりも便利と感じ始めた

・情報リテラシー、犯罪対策などリテラシーをきちんと高めていかないと不安がある。

・インストラクターとして、危険や高度なことを教える人と、身近にいて忘れたときにフォローする人は別でもいいのでは？

・脱・座学 日頃のアクティビティを通じて使い方をマスターできる仕組みは？

・【スマホを持つ】、【スマホを使い始める】、【スマホを使い続ける】の3段階で施策案の提示があった。(森嶋さん)

・今後のアフターコロナ期にシニアがニューノーマルICT ライフを過ごすためのキーワードは、以前示した7つのうち「交・楽・守」の3つとなるのではないか。3つの要素は三位一体で相互作用により、シニアのICT(スマホ)利活用が充実。(富田さん)

3) 今後の利用拡大ストーリー(齋田さん)

・LINEのための講習会、勉強会、相談窓口の設置

- ・データ通信量を減らす、NPO 内プライベート Wi-Fi
- ・イマドキのデジタル市民になる。

(これ等については説明はなく、資料として提示された)

(森 記)

## (2) 第 148 回「社会保障」研究会 報告要旨

1) 日 時: 2023年2月22日(水) 18:00~20:15

2) 報告者: 宇野公子(アジア経済研究所 研究員)

3) テーマ: 「GVC と雇用拡大: GENDER への提言」

参加者: 15 名

グローバルバリューチェーン(GVC)とは、製品・サービスを市場に持ってくる上で不可欠な、国境を越えた活動および調達のことである。GVCによって輸出が増加し、生産性は向上するが、その結果として途上国の労働市場にもたらされる影響は、国によって大きく異なる。製造業の雇用が大幅に増加する国もあれば、労働需要が製造業からサービス業、低スキルから高スキルな雇用にシフトする国もある。GVCへの統合(参加)が各国の労働市場にどう影響するかは、業種、主要企業の戦略、国内の技術基盤、制度的環境などに左右される。アフリカの4か国は、製造業におけるGVCの仕事のシェアが低く、特に食料生産の場合、強い後方リンクのために農業におけるGVCの仕事のシェアが比較的高いという点で際立っている。

GVC統合は雇用創出の触媒となるかもしれないが、その雇用効果は複雑で国内でコントロールするのが難しい。GVCにおける大規模な雇用創出には持続的な低賃金が必要であり、労働と技能の向上は、低技能労働者と女性労働者の不平等と結果の両方を悪化させる可能性がある。

政策は、雇用創出の源泉としての役割よりも、GVC統合に関連する生産性の向上にもっと焦点を当てるべきである。サプライチェーンの深化を支援し、スキル開発に重点を置いた技術の波及効果を活用するための政策は、GVCからのダイナミックな可能性を最大化するように配置された適応可能な労働力を支援する。GVCの仕事の需要は、2000年から14年の間に最終財への世界的な支出の増加によって後押しされた。しかし、生産高あたりの労働需要が同時に低下したため、労働需要の伸びは鈍化した。

GVC統合の雇用効果は発展途上国ではまちまちであり、その過程で勝者と敗者の両方が出現している。労働市場への影響は雇用をはるかに超えており、スキルに対する相対的な見返り、包摂のレベル、スキル開発(アップグレード)の可能性の変化が含まれる。各国のパターンは、セクターや国がアップグレードするにつれて、賃金は上昇するが純雇用は減少し、より多くの熟練労働者が最も多く増加することを示している。GVCの労働基準の引き上げは、労働者が条件の改善の恩恵を受け、企業が生産性の向上を経験しているため、全体的にウィンウィンの提案であるように思われる。最後に、GVCは、経済活動における国際協力が相互依存を増大させ、その結果、平和維持に貢献すると信じられてきたが、ロシアとウクライナ間の戦争にともなって導入された経済制裁の継続、技術の流出に対する警戒感から、経済安全保障の観点からGVCを遮断する動きが起きている。このため、GVCが遮断されても、各国の人々の福祉が低下しないように、生産プロセスを再構築する必要がある。この観点から、GVCはパラダイムシフトに直面しており、新しいモデルの構築が急務である。(宇野公子 記)

## (3) 第30回「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

1) 日 時: 2023年2月25日(土) 13:30~16:30

2) 場 所: 品川区東大井 5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室

3) 発表者: 鈴木 眞澄及び会員(YNS やまぶき任意後見サポート会)

4) テーマ: 認知症とともに生きる

びしょうざ

劇団 「B笑座」第16回

「人形劇」も混ぜて、楽しく寸劇を行いました。Zoom参加者も増えました。今後に活かした

いと思います。

#### (4) 第41回「ライフプロデュース」研究会の報告

1) 日 時：2023年3月14日(火) 17:30~19:30

2) 報告者：岡田慶子さん

3) タイトル：読書会『「オッサン」の壁（講談社現代新書）2022年4月』

著者：佐藤千矢子

全国紙初（毎日新聞）の女性政治部長が克明に記す「男社会」のリアル。日本社会への処方箋

4) Zoom 開催

「オッサン」とは、「オッサン」の定義は何か。「オッサン」の壁は具体的にどのようなものなのか。「オッサン社会」を生き延びるためにはどうしてきたのか。男尊女卑の文化の中で育ったミソジニー（女性蔑視）。「ジェンダー・ハラスメント」問題。新聞・通信社の女性記者の割合：22.8% 国会議員の女性割合 衆議院：9.8%。「子育て」か「昇進」か。女性管理職としての本音は。男女平等の政治参画を規定しているフランスの法律「パリテ法」日本では、女性の「非正規雇用率」は54.4%。ロールモデル不在の「定年女子」。「オッサンの壁」は越えるものではなく、壊すもの。日本のジェンダーギャップ指数、主要7か国最下位。進まない選択的夫婦別称の議論

上記について、参加者それぞれの感想を、実体験、具体例を交えて発表。

尚、詳細については、学会ホームページの「ライフプロデュース」研究会ブログで報告する予定です。[ライフプロデュース研究会 \(sblo.jp\)](http://sblo.jp) (岡田慶子 記)

## 5. 事務局からのお知らせとお願い

### <会員情報変更時のご連絡のお願い>

コロナ禍中、各種ご連絡をeメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報（氏名・住所・eメールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。当面、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あて連絡は、eメール：[jaas@circus.ocn.ne.jp](mailto:jaas@circus.ocn.ne.jp) 又は郵送いずれかの方法にてお知らせください。

### <2023年4月 JAAS News の発行日>

次回 JAAS News 第284号の発行日は、2023年4月19日（水）です。原稿をお寄せ下さる方は、4月13日（水）までに、学会宛のeメール添付にてお願いいたします。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人 シニア社会学会・事務局  
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21  
ちよだプラットフォームスクウェア1037  
eメール：[jaas@circus.ocn.ne.jp](mailto:jaas@circus.ocn.ne.jp) URL：<http://www.jaas.jp/>